

令和6年度第2回大阪府立博物館等指定管理者評価委員会 議事録

日 時：令和7年2月19日（水） 13時00分から15時00分

場 所：大阪府立弥生文化博物館 1階会議室（オンライン併用）

出席者：南委員、羽森委員、川喜多委員、長友委員、福光委員（リモート）

（事務局）大阪府教育庁文化財保護課

（指定管理者）AKN 共同事業体

<開 会>

事務局より、5名の委員の出席があり、規則に定める定足数（委員総数5名の過半数の出席）を満たし、委員会が成立していることを報告。

<議 事>

（1）弥生文化博物館のⅠ及びⅡ

（2）近つ飛鳥博物館のⅠ及びⅡ

（3）弥生文化博物館及び近つ飛鳥博物館のⅢ

事務局より評価票（案）に基づき、議事（1）～（3）を通して説明。

（意見等）

長友：近つ飛鳥博物館の「Ⅱ(2)その他創意工夫」について、自己評価がAであるところ、管課評価はSとしている。定量的評価として動画の公開数が評価基準を大きく上回るとともに、現代のメディアに則した創意工夫を行っている点について、所管課評価にあるように、評価に値する。

南：インバウンドの入館者数について、事務局の説明を聞いて、率直に言って少ない印象を受けた。インバウンドに関する分析などを聞かせてほしい。

指定管理者：近つ飛鳥博物館については著名な建築家の建築としての魅力を求めて欧州から個人で来館される方が見られる。外国人来館者の中で人数が多いのは中国・韓国などの東アジア圏で、団体のバス移動で来館されるケースもある。

南：日本へのインバウンド数の増加に対して、両館への外国人来館者は増えていないことが懸念される。外国語対応などの予定や進捗は如何か。

事務局：両館ともに多言語解説整備について用意を進めている。多言語対応が実現すれば、万博を契機に来館者の増加を見込める。

長友：今後両館が安定して来館者を増やすためには、「来館経験のない新規層をいかに取り込むか」が重要であり、インバウンドもその対象の一つである。ただし、新規層の取り込みは、各博物館の得意分野を活かした展示内容の充実を前提に検討すべきである。

南：日本の博物館全体の傾向として、運営年数の経過とともに入館者数が減少する傾向が

あり、それを防ぐために各博物館では様々な工夫を凝らしている。両館がそうした取り組みを検討する際に、コロナ禍以前の数値との比較に比重を置くのではなく、コロナ禍以降に再始動したと捉えることが、より建設的な博物館運営につながるのではないかな。

福光：SNS 等による各種イベントの広報や、開館に関する告知など、精力的かつ有効にインターネットを活用できている点を評価できる。

羽森：今後、A 評価を S 評価にあげていくような、さらなる高みを目指すための方針は検討しているか。

指定管理者：近つ飛鳥博物館では、周辺の史跡のポテンシャルを十分に引き出せていないことが課題。来年度は長期休館を予定しているため、地域性を活かした展示と休館中の活動に注力したい。弥生文化博物館では、多言語化を始めとしたインバウンド誘致に注力している。現在、万博会場での多言語パンフレットの配布準備や府内観光案内所との連携強化を進めている。

南：インバウンド誘致について、現状はパンフレットの配架が主な活動だが、さらに踏み込んだ試みができないか。例えば出前展示など、インバウンドの目に留まる活動を検討してほしい。

長友：インバウンドは京都に向かう傾向が強いが、京都には先史時代に関する博物館が少なく、「先史時代を知る」目的では大阪が最適である。この強みを活かし、大阪に注目を集める工夫が必要。

川喜多：広報物は具体的にはどこに設置しているのか。

指定管理者：鉄道主要駅にある大阪観光局の観光案内所等に設置している。また、今年度はネット広告を試行し、HP のアクセス数が大きく増加した。

川喜多：幅広い層から館へのアクセス手段を始めとする情報を得るために、アンケートの回答方法を、インターネットからも回答できるようにするなど工夫に期待する。

長友：インバウンドをターゲットにする際、海外旅行者は自国の博物館を基準として、旅行先の博物館を判断する。近年、海外の博物館、特にアジア地域はデジタル技術を非常に重視した展示を行っている。館の世界観に没入できる体験を提供する館が多く、幅広い層の来館者を取り込むことに成功している。インバウンドを惹きつけるには、他国の博物館を研究することが不可欠である。

南：評価に関して委員から異論はなかったが、今後の運営について、多岐にわたり提言いただいた。これらを踏まえ、施設所管課と指定管理者とで検討の上、評価票案を修正し、最終的な評価票を作成するという形でよろしいか。（全員：異議なし）

事務局：今回の意見を踏まえ、事務局で評価票案の追記並びに修正をする。本日の議事要旨については、事務局でまとめたものを委員長に最終確認いただき成案とするということではよろしいか。（全委員：異議なし）

<閉 会>